

令和2年 豊橋市健幸なまちづくり協議会生活習慣病対策部会 議事録

日時	令和3年2月4日(木) 13:30~14:30
開催方法	WEB会議(ZOOM使用)
出席者	豊橋市健幸なまちづくり協議会生活習慣病対策部会委員9名
事務局	健康増進課
事務局	<p>&lt;報告1. 豊橋市の糖尿病の現状&gt; 資料1について説明</p> <p>&lt;報告2. 糖尿病腎症重症化予防事業の取り組み状況について&gt; 資料2について説明</p> <p>&lt;議題1 後期高齢者医療保険・社会保険への展開について&gt; 資料3の説明</p>
B委員	令和3年度から、健康増進課で作成する受診状況確認書を企業で改編し、従業員が精密検査を受診する際に、ドクターに依頼する様式として活用したいと考えている。糖代謝の要精検となった対象者に、協力医療機関一覧に出典先を明記し配布することも検討している。
C委員	保健所からの資料を結果説明時の病院紹介に案内していきたい。重症化予防の取り組みとして血糖だけでなく、血圧・脂質に関しても実施しているため、活用できるものがあれば活用していきたい。
A委員	糖尿病性腎症重症化予防事業において、75歳の方の対象拡大とあったが、今後さらなる対象拡大もあるのか。
事務局	高齢者は診断基準などの見直しも必要であり、医師に相談する中で高齢者のみでなく若い世代にも力を入れていくことも必要であるため、対象拡大の予定は今のところなし。
A委員	モデル企業の枠を広げる予定はあるか。
事務局	現在は2社のみ。健康マガジンなどでほかの健康経営登録企業の方に活動を周知することで産業保健師や企業の健康意識が高い方など市内企業に広げていきたい。
D委員	企業健診について、A社はHbA1c5.6以上の方50.6%、B社は36%、かかりつけ医がいて受診をしているのか。
B委員	A社はHbA1c6.5以上の方に、かかりつけ医に相談し精密検査の受診を推奨。5.6~6.4%の方は経過観察となっているため、約4割の受診状況は確認できていない。昨年まではHbA1c6.0以上を基準にしていたが精密検査の結果が特に問題なしと診断されることが多かったため現在の基準になった。
C委員	B社でも6.5以上の方に健康診断と一緒に受診報告書を渡して、受診状況の確認。受診をしていない方は、保険者から通知が来て、ドクターに記入してもらい提出するように受診状況を確認している。
E委員	B社は100%実施しているが、パート従業員も含まれているのか。
C委員	B社はパート従業員の方も検査し全体もデータに反映されている。健康診断を受けられた方は、全員保健指導を受けていることは把握。
事務局	<議題2. 腎臓お守りシールの活用について>

	資料3について説明
D委員	お薬手帳に貼ることについて、患者自身が貼るのではなく、担当の先生が必要か判断して患者に説明してお渡しするほうが良いと考える。
F委員	基準を統一できれば医師が患者に説明してお薬手帳に貼ると良い。しかし、市の重症化予防事業対策とうまく連携できるのかという懸念あり。
E委員	CKD、DKD は多い。市の事業に関わらず、もう少し広く周知することが必要だが、誰がお金を出すのかというのが問題かと思う。市・医師会・薬局で連携して数を増やしていくとよい。
G委員	患者自身がお薬手帳を介して、持病のことを伝えてもらうことができれば、他科に行っても患者から話がもらえ、安心して治療が勧められると思う。感染症などにも対応していけるため、今後、連携して充実させていきたい。
A委員	かかりつけ医から腎臓の専門医への引継ぎに関してご意見をいただきたい。
E委員	紹介基準はすでに定められているため、引継ぎ自体は問題ない。引継ぎができることが広く知られていない現状。医師会としては各医療機関に通知している。医師個人が把握しているかが問題。
F委員	基準を定めているが、基準に到達し紹介したいが患者に自覚がされていないことが多い。専門医への引継ぎを勧めてもまだ大丈夫とって先延ばしされている患者が多い。患者からみればせっかく受診しても、お話を聞いて終わったというのでは問題。患者が受診してよかったと思えるようなやり方を考える必要がある。
H委員	シールを各医療機関に配付するのであれば、事務局のほうで誰がシールを受け取ったかを把握できるようにしたほうが良い。
事務局	保健指導対象者に家庭訪問や面接を行ってシールの説明を行ってきた。今後は通知後返信のない方には再度連絡し、シールの意義や活用について説明したり、受診勧奨値に達している未治療者に対して、受診勧奨通知と同封でシールの配布を行っていくことを検討。またこれまで対象外であった医療の支援を受けている方については、通院先の主治医を通してシールを貼ってもらい、継続した治療コントロールに活用できるのではないかという考えもあるので、そのあたりを含めて今後も検討していきたい。
事務局	長きにわたる豊橋の課題として糖尿病があるが、支援事業を行い、今後も活動が広がって健康寿命の延伸につながっていけると良い。腎臓お守りシールについても、いただいたご意見を踏まえ、事業を進めていきたい。